



山形中央ロータリークラブ クラブ会報 CLUB NEWS

WEEKLY REPORT YAMAGATA CENTRAL



国際ロータリー第2800地区 第5ブロック 山形中央ロータリークラブ 「20年を祝し、次の10年へ」

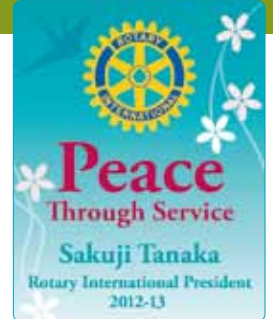


〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL (023) 632-7777 FAX (023) 624-5200

例会 毎週火曜日12:30～13:30(但し第5週は18:30～) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|--------------|-----------------------------|
| ■ 会長 鹿野 淳一 | ■ 職業奉仕 遠藤 隆一 | ■ 副幹事 江目 祐一 |
| ■ 会長エレクト 板垣 喜代志 | ■ 社会奉仕 長橋 正人 | ■ 会計 小林 敏郎 |
| ■ 副会長 三浦 龍夫 | ■ 新世代奉仕 安部 敏 | ■ S A A 佐藤 吉信 |
| ■ 直前会長 安藤 英男 | ■ 国際奉仕 斉藤 真 | 国際ロータリー会長 田中 作次(八潮RC) |
| ■ クラブ管理運営 金子 将人 | ■ 幹事 伊藤 和子 | 第2800地区ガバナー 和田 廣(南陽東RC) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 千歳 徹(山形ヴェンチRC) |

◆日時／2012.2.12 12:30 ◆例会場／ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング／我等の生業



会長挨拶



今日はお客様に株式会社 丸八やたら漬 新関芳則社長をお迎えしています。「食と街づくり」と題して卓話をお願いしていますのでよろしくお願いいたします。

また、1月最終例会の際には大変お世話になりました。

ました。

さて、私この3連休を利用して宮古島に行ってきました。沖縄は何度が旅行に行っていますが離島は初めての経験でした、私の職業である水道関係の研修も兼ねて訪れてきました。

東日本大震災から間もなく2年になります、福島原発の事故の際には水の放射能汚染が心配されました。山形においても万一、最上川源流が汚染されれば最上川水系から水道水の取水が出来なくなる心配があり、その際地下水の確保が出来るかが検討されました。山形市でもい

前は地下水を水源にしていた処もありましたが緊急時にそう容易にできる事ではありません。東日本大震災時に地下水活用の確保や活用の方法の検討を行った経験から今回の宮古島訪問になりました。

宮古島は川が無い生活用水、農業用水すべての水源を地下水に頼っている島です。昔から宮古島の水場は信仰の対象になっていて大切に守られ祀られている様子なども見てきました。普段、私たちが何気なく使っている水ですがこの島では本当に大切に使われていると感じてきたところです。また、宮古島には、現在も福島からの20名余りの方々が避難者されているとの事でした。あらためて、避難されている方々のご苦労も感じさせられました。

2月も早いもので半分くらいが終わろうとしています。

3月第一土曜日は2800地区のI.M.です、皆さんの出席をよろしくお願いいたします。



鹿野淳一・伊藤和子／新関様の卓話に感謝申し上げます。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	40名	—	22名	—
修正出席	40名	40名	35名	87.5%
他クラブでメイクアップされた会員	(山形北) 金子昌弘 武田耕一			



ゲスト卓話

「食と街づくり」 株式会社丸八やたら漬 代表取締役社長 新関芳則氏(山形RC会員)

皆様、過日の寒鱈の会、誠にありがとうございました。

ご紹介賜りました、丸八やたら漬 香味庵まるはちの新関芳則と申します。

手前どもは丸八新関寅治商店として、明治18年に醤油、味噌とやたら漬一品で創業、おかげさまで128年となります。食事どころ香味庵まるはちも20年が過ぎました。

やたら漬は副産物的なもので、醤油、味噌が主体の商いだったそうです。考えて見ますと、漬物という物は、最古に近い食品だと思われれますが、販売が始まったのは非常に新しい商品で、ほとんどが自家消費であったと思われる。大根・茄子・胡瓜・ごぼう・人参・紫蘇の実・蓮根に白ゴマをふり、やたら減多・減多矢鱈 に材料を入れたのが名前の由来です。

おみ漬も近江商人の漬物が 近江漬 おみ漬 と変化、江戸時代から平成の世に続く山形の代表漬物として受け継がれております。

おみ漬は質素儉約 もったいないの精神を大事にする近江商人が、山形五堰の笹堰に流れてくる大根の葉っぱを見つけ、上流にさかのぼり、大根洗いをしている所から、はじいた葉っぱや皮、尻尾、髭の部分などもったいないと貰ってきて、正月の御馳走にしたと言う話である。それに驚き、近江商人の漬物として伝わったのだそうです。

鉄道が開通した明治36年以降、キオスクの前進、弘済会の要請で駅で販売する商品の開発に着手するが、現在のような汁物のパッケージ(ビニール袋)が無く、陶器や曲げ、樽、紙製の曲げに蠟を塗ったりして汁漏れを少しでも押さえる苦心が見られます。

ほとんどの食品は量り売りの時代です。ビニール製の小袋が出来た事により、一気に持ち帰り、持ち運びの機能が大変革したようです。

現材は40種類の漬物を製造販売し、昭和39年に父が作った漬物寿司を郷土料理等とお出する、食事処香味庵まるはちも21年を数え営業いたしております。

本日ご参加の商工会議所青年部のOBの皆様がたくさんいらっしゃる中、日本一の芋煮会の特出する出来事がございます。私は山形市をアピールする起爆剤として芋煮鍋の巨大化5メートルの鍋を思いつき、イベント化していく事を創造しました。計画を進める中で多くの困難に当たります。大鍋が出来るのか？ 実際に炊き上げる事が出来るか？ 予算は？ どうやって多くの方々に配るか？ 燃料はなに？ 場所は？ 水は？ いつの時期か？ 大鍋の運搬は？

きりが無い程の難問難題です。しかし、成功した隠れた大功績は川合勝芳さんの知識と知恵であります。それは、新しく鋳物造ったときにやる作業の知識であります。当時を思い起こすと、川合さんの指示で試し炊きをしている時、旧工業試験場の庭の雑草(よもぎ)を刈り取り、それであく抜きをするというのです。思えば非常に

理にかなっているのですが、当時の状況下でそれを思いついて行った事は、難題の解決よりも成功の可否を決定するポイントだと思われれます。全ての設営が出来上がり、上手く芋が煮えて、試食したときに、多くの人列を成して今は遅しと待っている時に不味くて配れない……ぞっとする失敗が頭をよぎります。実は岩手の水沢も翌年の平成2年に3メートルの鍋を芋の子汁をやってその鍋のあく抜きをやらずに、大変だったと風の噂で聞きもう一度ぞっとしたことを思い出します。川合勝芳さんのその行動がなかったら一回目で失敗二回目は無かったかも知れません。拍手……

話は飛んで本日の資料に城下町探検地図という物があります。

これは、探検隊という市民グループを組織して、実際に歩いて、情報を集め作成した市街地の散策コースや名所旧跡は勿論、休みたくなる所に食事処、蕎麦屋、だんご屋、餅屋、喫茶店、おやつ屋など自由な訪れて頂く方の目線で作りしました。

また、山形は城下町というイメージが薄いですが非常に変わった地形を利用している城下町です。扇状地盆地を使い、一番低い場所に城があり、その上に、家来、商人、職人、そしてお寺を配し、東よりの敵に備える。自分が城主になって城を造るとなったら、誰しもがそう思われると思うが高い所に造り、眼下に自分の領地を見下ろすことの出来る場所を選ぶように思う、しかし、山形城は違う訳です。また、住民が楽に往来できるように、メインストリートの七日町・本町(横町)・十日町は勾配の無い所に街道を通して上手に職人町を作り、物品の運搬の利便も考えた街づくりが400年前から行われている事に驚くしいです。

さらに、探検隊の歩いている際に気づいた、なかたちいしなる物に注目し地図に掲載する。

これは、現在で言うと、インターネット、新聞、携帯電話に匹敵する、ツールになる。

所謂、掲示版の役目を果たす石柱です。たずねる人・こたえる人と左右に書いてあり、真ん中になかたちいし 中立ち媒体の意味です。こんな面白いものが街中に沢山あると思われる。

井の中の蛙大海を知らず…… 莊子

は狭い場所から出て広い世界を見聞することが大事の意味と思われる。

しかし、その後の言葉を考えた人がいる。 永六輔さん

それは、しかしその天空の良さ(広さ)を知らず……

これを私なりに、地方都市の街づくり置き換えると、狭い自分のいるところから出て見聞を広げるのは大事だけど、その狭いところの良さも知ろうとしないし、知らないのでは……

と言っているように思われて成らない。

この山形の良さ、歴史や季節、景観に食文化、そして人間 もっともっと自信を持って自慢して行こうではありませんか。

近隣クラブ例会案内

月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
山形西	大沼デパート	山形南	ホテルキャッスル	山形	山形グランドホテル	山形北	山形グランドホテル	山形東	ホテルキャッスル
中山	料亭むらくら	山辺	料亭さつき	かみのやま	月岡ホテル	寒河江	グランドホテル	天童	瀧の湯ホテル
天童西	ホテル王将	寒河江	さくらんぼ	天童東	天童ホテル				
山形イブニング	パルスグランド								

※ 欠席したらメイクアップ、メイクアップしたら出席委員長までご連絡下さい。



2012～2013年度国際ロータリーテーマ／奉仕を通じて平和を

山形中央ロータリークラブ クラブ会報 CLUB NEWS

WEEKLY REPORT YAMAGATA CENTRAL



国際ロータリー第2800地区 第5ブロック 山形中央ロータリークラブ 「20年を祝し、次の10年へ」



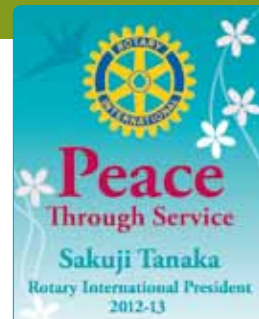
〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL (023) 632-7777 FAX (023) 624-5200

例会 毎週火曜日12:30～13:30 (但し第5週は18:30～) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- 会長 鹿野 淳一
- 会長エレクト 板垣喜代志
- 副会長 三浦龍夫
- 直前会長 安藤英男
- クラブ管理運営 金子将人
- 職業奉仕 遠藤隆一
- 社会奉仕 長橋正人
- 新世代奉仕 安部敏
- 国際奉仕 齊藤真
- 幹事 伊藤和子
- 副幹事 江目祐一
- 会計 小林敏郎
- S A A 佐藤吉信

国際ロータリー会長 田中作次(八潮RC)
第2800地区ガバナー 和田廣(南陽東RC)
第5ブロックガバナー補佐 千歳徹(山形イコングRC)

◆日時/2012.2.19 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング/それでこそロータリー



会長挨拶



先日、石巻に行ってきました。朝6時30分にバスで山形を出て東北道を石巻に向かいました、途中見覚えのある山形の建設会社の車4～5台程から追い越されました。山形から被災地の復旧支援に出かけている会社が相当数有るのだと実感したところです。石巻市内に入るインターは大変な渋滞でした。

沿岸部はまだがれきの処理に追われていて、復旧・復興には程遠い状況です。

様々な話を聞いたのですが、現在一番の問題は労働力の問題だそうです。

石巻では約1,000人の方が津波で行方不明になり4,000～5,000世帯が消失したそうです。当然のことな

から労働力が減少していますし、同時に生活保護を受ける事となり働く事を辞めてしまい労働の現場に戻ってこない人が相当数にのぼるとい事でした。これは建設現場だけでなく工場や商店でも同じだとい事です。

水産業も震災前は約300社があったそうですが現在操業しているのは約100社、補助金など政府の政策の後押しもあるのですが中々再建にまでの道のりは遠いようです。様々な問題を克服して稼働している工場の方は、自分たちが努力し会社を大きくし雇用を維持しないと街が衰退してしまうのだと話していました。

復旧・復興と雇用の維持、大変難しい問題を同時に解決しなければならず苦労も多いとのこと。様々な条件のもと再建したくてもできない会社が相当有るのが実情のようで、復旧・復興の道のりの遠さを知らされた気がします。一日も早い復旧・復興を祈りたいと思います。



中川清美/三浦専務理事卓話ありがとうございました。

板垣喜代志/久々のニコニコです。皆様が今日一日、そして来週まで良き日でありますようニコニコです。

坂川好則/誕生日祝いの花ありがとうございました。三浦専務理事の卓話ありがとうございます。

鹿野淳一・伊藤和子/本日専務理事三浦様の卓話に感謝申し上げます。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	40名	—	29名	—
修正出席	40名	40名	32名	80.0%
他クラブで メイクアップ された会員	(山形) 今野久仁正 安藤英男 奥山 宏 武田耕一 (イブニング) 安藤英男 奥山 宏 海谷靖夫			



ゲスト卓話
「山形県の
木材資源現状と県産材利用」

やまがた県産木材利用センター 専務理事 三浦直美氏



1. 森林資源の現状

(1) 日本は森林大国

- ① 森林面積：18位/229国、② 森林率：約67%で23位
- ③ 木材輸入量：世界3位 ④ 自国森林資源の伐採量は0.53%で極めて低位

(2) 山形県の森林面積(平成22年度統計から)

- ① 67万ha(全国8位)で、県土の約7割
- ② 民有林(47%) 国有林(53%)の比で、天然林(66%、全国55%)が多い。
- ③ 樹種割合は「スギ人工林」、「里山ナラ林」、「奥山ブナ林」が概ね3割ずつ。

(3) 山形県の森林蓄積

- ① 人工林、天然林が半々、総蓄積(9,390万m³)の63%が民有林。
- ② 年約128万m³ずつ増加し、昭和45年(1970年)の約2倍。天然林は約1.4倍、人工林は約4.9倍で人工林の増加(年97万m³)が著しい。
- ③ 人工林は間もなく利用適期を向えるが、幼齢林が極めて少ない。

2. 木材の動向

(1) 日本の木材使用量は減少

- ① 世界の木材消費は燃料用6割の実態で増加傾向。しかし、日本では住宅着工数の減少や人口減少、景気低迷等で減少傾向。
- ② 木材の輸出入は丸太から製品に移行し、貿易形態は多様化(中国は丸太を輸入し合板を輸出)。

(2) 日本の木材自給率は27.8%に上昇

- ① 国産材供給量は6%減(対前年比)であるが、木材の輸入23%減となったため、自給率は上昇。また 輸入量はすべての輸入形態で減少。
- ② 国産丸太価格は長期下落傾向であったが、近年は下げ止まりか。

(3) 木材産業動向の特徴

- ① 新設住宅着工数は微増(平成22年88万戸、平成18年までは120万戸程度であったが19年度以降80万戸ライン)。木造比率は増加傾向。
- ② 乾燥材やプレカット(施工期間、コスト等から)のニーズが高まる。しかし、人工乾燥材の割合は低位のまま。

▶ 近隣クラブ例会案内

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
山形西 大沼デパート	山形南 ホテルキャッスル	山形 山形グランドホテル	山形北 山形グランドホテル	山形東 ホテルキャッスル
中山 料亭むらくま	山辺 料亭さつき	かみのやま 月岡ホテル	寒河江 グランデール寒河江	天童 滝の湯ホテル
天童西 ホテル王将	寒河江さくらんぼ ホテルソフォニー	天童東 天童ホテル		
山形イブニング パルスグランドール				

※ 欠席したらメイクアップ、メイクアップしたら出席委員長までご連絡下さい。

- ③ 製材工場は大規模化が進み、パルプ・チップは生産量減少。合板用素材の国産材割合は急増しているが集成材原料は依然として輸入材頼り。

3. 県産材の利用促進

(1) 山形県産木材の利用現状

- ① 総需要量は35万7千 m^3 、県産木材比率は82.6%であるが、ピーク時(2000年)の約4分の1。
- ② 県内の木材利用量の内65.3%が製材利用でその製材歩留りは58%。製材品の県内出荷割合は約50%で、県産材消費量は3万8千 m^3 。

(2) 県産木材利用の課題

- ① 自国(県産)の木材利用量が極めて少ない(成長量以下の利用量)。
- ② 持続性が保てない木材利用の現状と資源の年齢配置(老齢林は二酸化炭素吸収量が減少)。
- ③ 製材品の県内利用の拡大と県産木材の多様な利用(内装や断熱利用等)および県産材の県外移出の拡大(県内利用だけでは限度がある)

4. 県産材認証制度

(1) 総合住宅対策

- ① 製材用の8割は建築用であることから、住宅事業の県支援を強化。
- ② 平成23年度から3年間の実施予定(新築住宅ローンの利子補給の拡充やリフォーム補助)。

(2) 県産材認証制度

① やまがた県産木材利用センター

県産材使用の住宅建築による木造住宅関連産業の振興と山形県の森林保全を目的に平成21年1月に設立し、現在154団体加盟。

② やまがたの木認証制度

県産材の内、県の住宅支援制度への連動が可能な県産木材について、産地の認証制度を平成22年10月に創設しセンターが運営。現在認証に係る認定事業者は112者

5. なぜ県産木材の利用が必要なのか

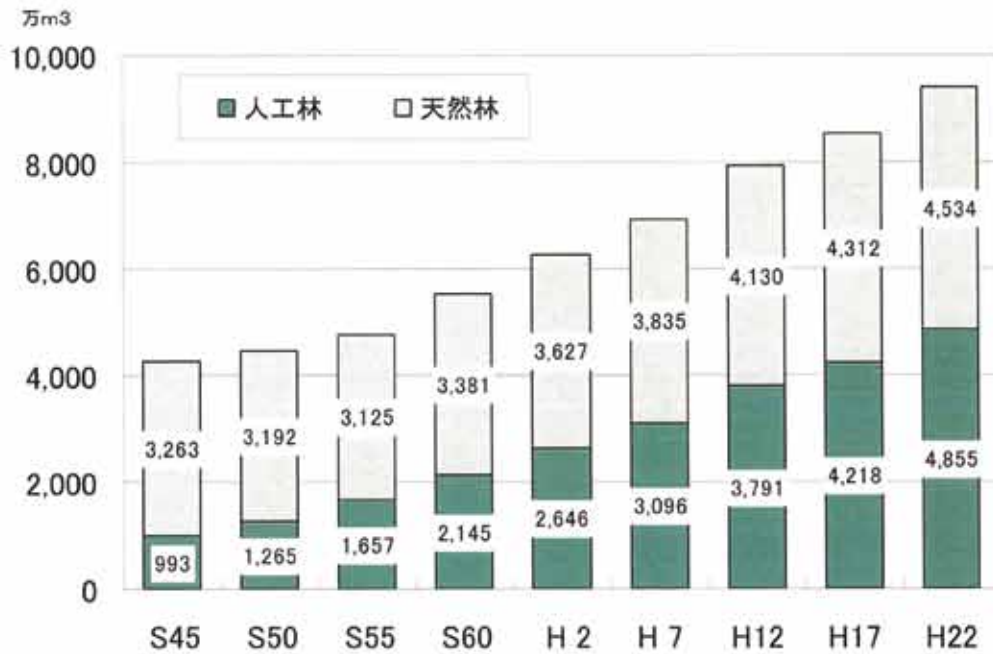
① 「県産木材を使いましょう」

木造住宅関連産業＝地域の総合産業

平成25年2月19日

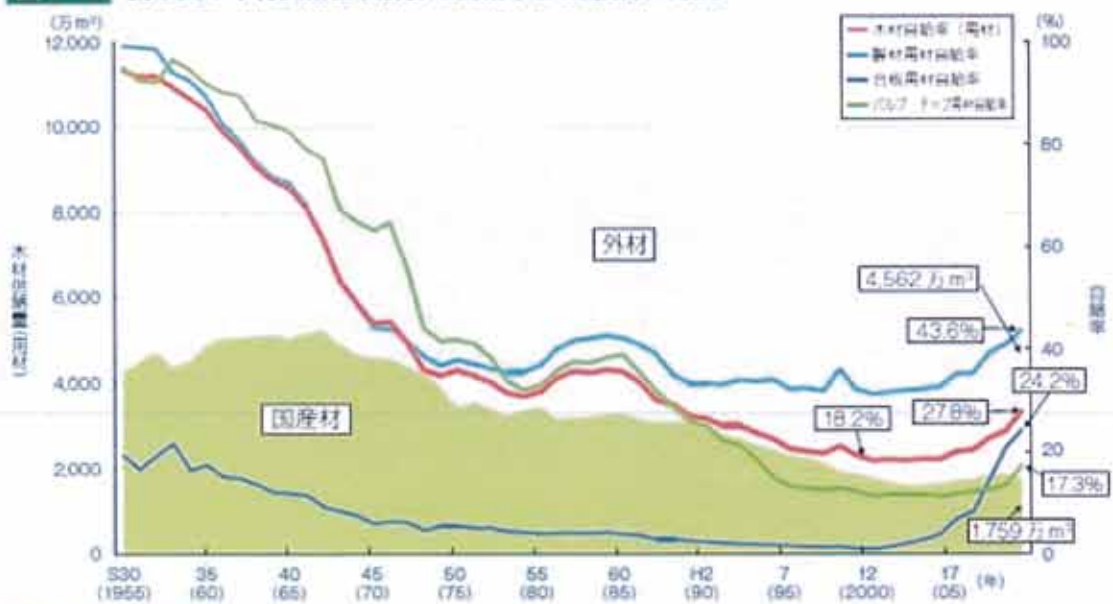
資 料

NO-1



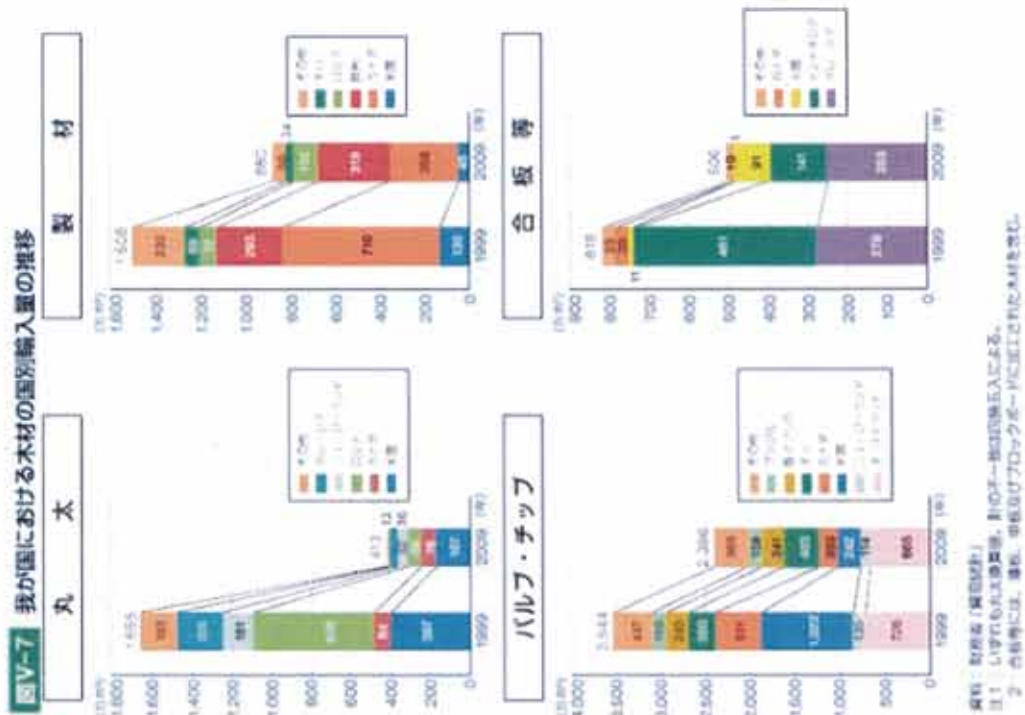
NO-2

図V-6 我が国の木材供給量(用材)と自給率(丸太換算)の推移



資料：林野庁「木材需給表」

NO-3

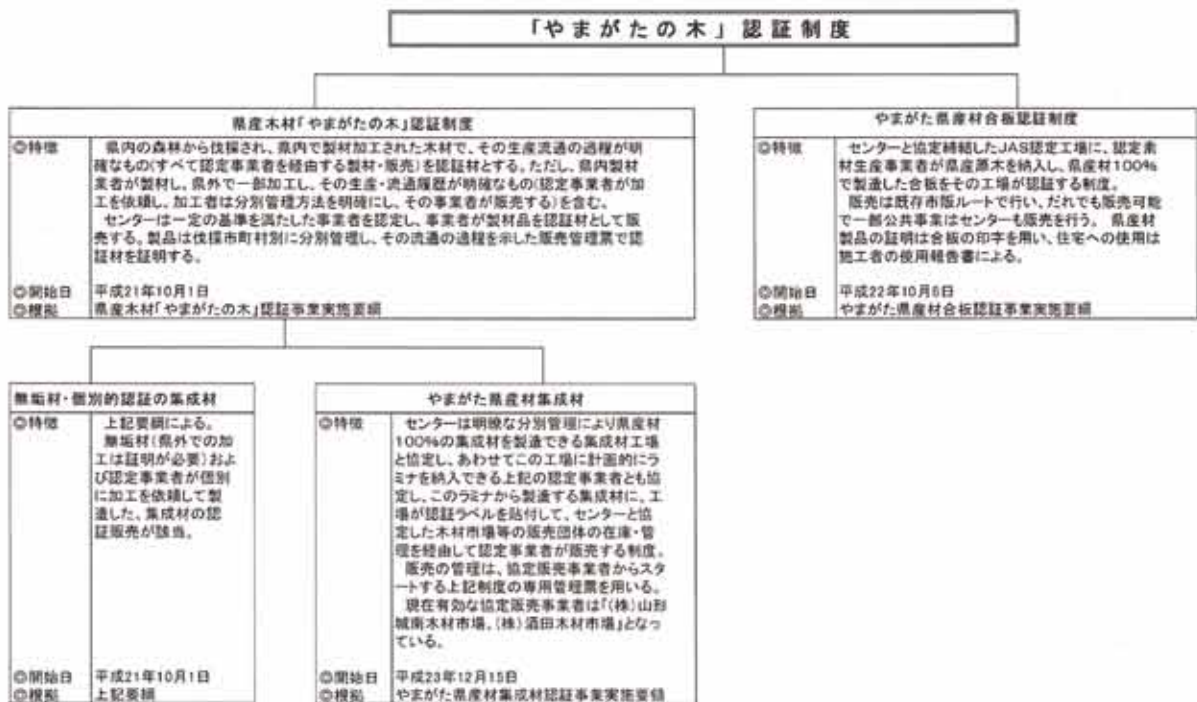


NO-4

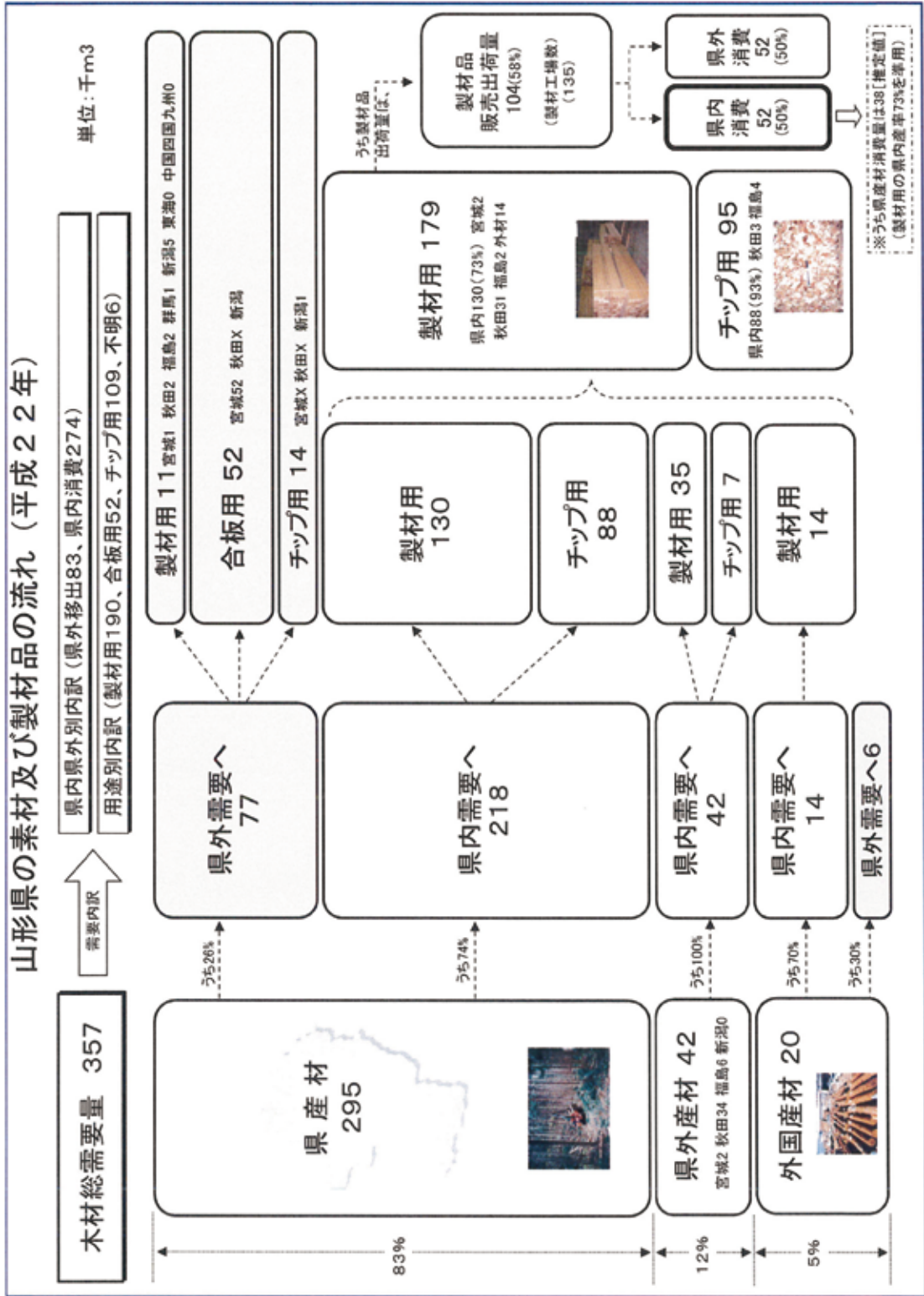
図-1

やまがた県産木材利用センターにおける県産木材認証制度の体系

平成24年11月9日
やまがた県産木材利用センター



品質の認証・産地認証のみで現在未実施。認証事業者の品質の維持・向上の努力を期待。



県産材を使いましょう

木材は再生可能な環境にやさしい資材です。
山形県にはこの木材が豊富にあります。
皆でこの資源を利用しましょう。



県産材はなぜイイの？

1 心やすまる家づくりができます！！

～木材は人と環境にやさしい安全で安心な住宅資材です～



山形の気候風土

山形の風土になじみ、人に優しい県産材でつくる家は、心やすまる安全・安心な暮らしをもたらしてくれます。

県産材は山形の気候風土で育ち、地域に適合した木材として県民に愛されています。品質・強度・性能が向上しており、乾燥材を増やしています。



2 地材地住で地域が元気になる！！

～地域の経済振興と雇用が確保されます～

(1) 地域産材を用いた地域企業による住宅建築で、地域の林業や住宅産業界が活性化します。地材地住で地域が元気になるようになります。

(2) 地域産物の活性化により林業・木材業や建設業に雇用が増加し、私たちの地元地域に新たな雇用が生まれます。

※ 県産材100,000円あたり、県産材生産者60人、木材加工業者30人の新たな雇用が創出されます。



3 環境にやさしく豊かな生活を守ります！！

～地域の森林整備が進み、自然環境が守られます～

(1) 地域の木材を利用することで「育てて」「育てて」「育てて」「育てて」という林業のサイクルが維持され、森林の整備が進みます。「また植え」

(2) 森林整備の促進により、森林のもつ「水をはぐくむ」や「山くずれを防ぐ」等の機能が高まり自然環境が守られます。

(3) 建築に不向きな木材を熱源や電力源にして、再生可能なバイオエナジーとして「脱原発」や「脱化石燃料」に貢献できます。

(4) 県産材は、輸入材に比べ運搬エネルギーの消費が少なく、炭酸ガスの排出量を少なくできます。



4 県や市町村の建築支援制度が受けられます！！

～木造住宅にかかる費用の一部を補助する制度があります～

住宅建築には金融的に負担がありますが、県産材を使用することで、住宅建築資金の負担を軽減できます。

- ① 新築住宅の利子補給制度
- ② 新築住宅への補助金制度
- ③ 住宅リフォームへの補助・融資



お問い合わせ **やまがた県産木材利用センター**

E-mail : ryou-e@yamagata-e.jp TEL : 023-674-7672 FAX : 023-645-8699
〒990-2473 山形市北条1-5-41